



# JACET通信

社団法人 大学英語教育学会

March 2009

The Japan Association of College English Teachers

No.168

## 目次

巻頭言 (岡田伸夫)	1頁	研究会紹介 (九州・沖縄支部ESP研究会)	8頁
海外提携学会から～ (MELTA)	3頁	本部便り	9頁
特色ある大学英語教育プログラム (津田塾大学)	4頁	支部便り	10頁
私の授業紹介 (鈴木右文)	6頁	事務局からのお知らせ	16頁

### [巻頭言]

## 「英語教育学大系」全13巻の刊行

—— 大学英語教育学の確立と大学英語教育の改善を目指して ——

50周年記念刊行事業準備委員会委員長

岡田伸夫・大阪大学

JACETの第1回大会が開催されたのは1962年のことでした。140名の先生方が参加されたと聞いておりますが、JACETは今や2800余名の会員を擁する学会に成長し、2012年には創立50周年を迎えようとしています。創立50周年をお祝いすべく、第50回記念国際大会(2011年)の企画が始まり、「英語教育学大系」刊行の準備が進行中です。JACETは昨年8月15日に社団法人になりましたが、第50回記念国際大会の開催と「英語教育学大系」の刊行が新生JACETの最初の二大特別事業ということになります。さらに、昨年12月の支部長会議において創立50周年記念誌を刊行するための準備委員会の立ち上げが認められました。本稿では、以下、上の三つの記念事業の

うちの二番目の事業である「英語教育学大系」の刊行について多少詳しくご報告いたします。

### 「英語教育学大系」の目的

英語教育諸分野における理論的研究は以前からたくさん行われています。しかし、いずれも単独の研究者、あるいは共同であってもそれほど多くない数の研究者による研究であり、互いの研究が組織的、体系的に繋がっているわけではありません。英語教育現場における実践研究もたくさんありますが、それらは必ずしも理論的裏付けのあるものばかりではなく、また、必ずしも相互に組織的、体系的に繋がっているわけではありません。

本大系の目的は、一言で言うと、大学英語教育

学の確立と大学英語教育（授業）の改善です。執筆の基本方針は、英語教育研究と英語教育（授業）の有機的統合です。JACETは、英語教育を理論的に研究すると同時に実践している会員からなる学会ですが、創立50周年を迎えるにあたり、総力を結集し、実現を目指しているのは、大学英語教育学の諸分野で積み上げられてきた研究成果をまとめ、将来の研究の方向を描き出し、得られた研究成果を中学・高校・大学の英語教育の改善に役立てることです。

#### 本体系がカバーする分野と各巻のタイトル

本体系がカバーする分野は、①英語教育政策論、②学習者論、③教師論、④応用言語学、⑤教授法、⑥測定と評価の六つです。以下、各分野名をあげ、その下に当該分野に属する巻の番号とタイトル/サブタイトル（サブタイトルが変更される可能性は若干あります）と連絡係の氏名（敬称略）を記します。

##### ①英語教育政策論

- 1 『大学英語教育学—高等教育における外国語教育のあり方』（森住衛）
- 2 『英語教育政策—世界の言語教育政策論をめぐって』（木村松雄）
- 3 『英語教育と文化—異文化コミュニケーション能力の育成』（塩澤正）
- 4 『21世紀のESP—新しいESP理論の構築と実践』（寺内一）

##### ②学習者論

- 5 『第二言語習得—言語習得理論から脳科学まで』（佐野富士子）
- 6 『成長する英語学習者—学習者要因と自律学習』（小嶋英夫）

##### ③教師論

- 7 『教師教育のスタンダードと専門性—資質・能力をめぐって』（石田雅近）

##### ④応用言語学

- 8 『英語研究と英語教育—ことばの研究を教育に活かす』（岡田伸夫）

##### ⑤教授法

- 9 『リスニングとスピーキングの理論と実践—効果的な授業をめざして』（富田かおる）
- 10 『リーディングとライティングの理論と実践—英語を主体的に「読む」・「書く」』（木村博是）

- 11 『英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践』（山岸信義）

- 12 『英語教育におけるメディア利用—CALLからNBLTまで』（見上晃）

##### ⑥測定と評価

- 13 『テストと評価—4技能の測定から大学入試まで』（西田正）

本大系は最終的には13テーマに落ち着きましたが、森住会長からお預かりした一番最初の案には30テーマがあがっていました。その後、理事と支部長により11テーマが追加され、さらに、会員の先生方により94のテーマが追加されました。候補となるテーマがあらかた出揃ったのを見計らって、準備委員会で執筆及び出版の可能性を考慮し、総計135のテーマを整理・統合し、最終的に13テーマに絞り込んだ次第です。封筒に返信用切手を貼ってアンケート回答をお送りくださった194名の会員の先生方にはこの場をお借りして心からお礼を申し上げます。

編集・執筆体制ですが、各巻には連絡係のほか数名の先生が責任編集者として加わっています。責任編集者の先生方は全部で45名です。執筆予定者は現時点では200名近くに上っています。

#### 刊行準備と刊行予算

記念刊行事業の準備は主として50周年記念刊行事業準備委員会が行っています。準備委員会は委員長、副委員長、7支部長、6委員の15名から構成されています。会議は一昨年9月5日の第1回を皮切りに、現在までに、計8回開催されました。そのうち、直近の3回は各巻の連絡係の先生方との合同会議の形を取りました。

近年の出版事情を鑑みると、全13巻という大部のシリーズを刊行するには学会としてもそれなりの出費を覚悟しなければなりません。JACETは出版補助費として2000万円を用意しています。ここまでの学会の財政的基盤を築いてこられた先輩の先生方に心から感謝申し上げます。また、本大系の目的と意図をご理解くださり、快く出版をお引き受けくださった大修館書店の英断に心から感謝し、敬意を表したいと思います。

本大系は、2009年中に第1巻『大学英語教育学』

と第10巻『リーディングとライティングの理論と実践』が刊行され、その後、順次刊行されることになっています。最後の巻が刊行されるまでの間、先生方にはご指導やお力添えをお願いすることも多々あるだろうと存じますが、その節はどうぞよろしくお願ひいたします。

海外提携学会から～

Interview with  
**Dr. Normala Othman**  
of MELTA, Malaysia

Dr. Normala Othman, Assistant Professor at the International Islamic University, Malaysia, gave a lecture at the JACET 47th National Conference as a representative of IIUM and MELTA, The Malaysian English Language Teaching Association. She then kindly accepted to be interviewed and this is summarized as follows.

MELTA was founded in 1982 as a non-profit organization to promote English language teaching in Malaysia. There are about 1,000 members from all over the country. Most are English teachers, from kindergarten to university level. MELTA publishes two journals, *The English Teacher* and *The Malaysian Journal of ELT Research*, which is an online journal. MELTA also holds an international conference every year. This conference becomes a “traveling conference” every other year, i.e., it is organized in three locations in Malaysia within a period of two weeks, in order to reach more teachers.

Malaysia is a multicultural country, consisting of Malays, Chinese, Indians and other ethnicities. The national language is Malay, with English as the second most important language. In the Malaysian public educational system, elementary schools are mainly in the national language; however, there are private schools conducted in

other vernaculars such as Mandarin and Tamil. English is taught as a subject from the first grade of elementary school. Consequently, Malaysians usually become bilingual or trilingual. Some people speak as many as four languages.

As Malaysia had been governed by Britain for more than 100 years, many middle-aged and older people speak English fluently. During the British colonial and early post-colonial periods, English was used as an official language. Since 1970, however, the government adopted a policy of using Malay as the medium of instruction at school to promote a sense of national identity. One consequence has been a sharp decline in the overall standard of English proficiency. Concerned about a loss of competitiveness in the international economy, the government decided to strengthen English education in 2003. One of the policies employed was the teaching of math and science in English. Now at every school, the two subjects are taught in English. These subjects were selected because they are considered critical for the nation’s future development. Math and science teachers undergo consistent training so that they can teach their subjects in English.

In Malaysia, people who have a good command of English are more likely to get a good job. Therefore, many affluent parents send their children to private, even international, schools where English is used as the medium of instruction. Some families use only English even at home.



前列左がマレーシア MELTA の Dr. Othman。  
中央は韓国 ALAK の Dr. Seong。

Ordinary Malaysians people speak Malaysian English, which differs from standard English in terms of grammar, vocabulary and pronunciation. Dr. Othman said it is considered appropriate to use Malaysian English in daily communication, but English teachers focus on teaching standard English at school. Malaysian English has not been accepted in the academic world.

Although the language situation of Malaysia differs from that of Japan, there is much that we can learn from its efforts to promote English education.

(Reported by Naoko Osuka, editor)

## 特色ある 大学英語教育プログラム

津田塾大学  
田近 裕子

津田塾大学では、近年、文部科学省より2件の英語教育関係GP支援を得ました。その一つは、2004年度～2007年度の4年間にわたる特色GP「発展し続ける英語教育プログラム」で、主に学部の1～2年における英語教育活動に関わるものです。もう一つは、今年度つまり2008年度から3年間にわたる、主に学部3～4年を対象とした教育GP「専門課程における英語カリキュラム協調開発」(副題：理系・社会系および文系専門課程レベルの学生のための内容重視の英語教育カリキュラムの再構築および開発)です。

2004年度～2007年度の特色GP「発展し続ける英語教育プログラム」では、本学が100年来行ってきた英語基礎教育をさらに発展させ強化する取り組みを行いました。本学では、従来、2004年度当時の3学科(英文学科、国際関係学科、情報数理科学科、ただし2008年度現在は情報数理科学科が数学科と情報科学科に細分化されました)の全学生にほぼ同じような英語教育を行ってきました。本学の英語教育の伝統では、1～2年生で、4技能(listening, speaking, reading, writing)そ

れぞれに力点を置いて英語の訓練を行い、さらに上級生になるとその統合的な学習が行われるプランになっています。本学では1～2年生の英語教育では、4技能をバランスよくというのが特色で、一般の大学における英語教育に比べると結果的に書くことが強調されていると言えます。特に昨今のボーダーレス化の進む世界においては、即戦力となる英語の実力が求められ、とりわけ英語で表現する、英語で書く力が重視されていくと考えられます。

このような背景から、本取組では、書くことそして表現することを英語教育の中でどう鍛えあげていくかをひとつの大きな柱としました。新入生にはほぼ毎週作文を課し、学生一人ひとりへのきめ細かなフィードバックを行い、どの学科の学生も一年生では確実にパラグラフが展開できる基礎を作ります。その後、2年生では、エッセイやサマリーが書ける訓練を、これもまたほぼ毎週英作文を課すことによって行っています。こうした基礎力が、英語を用いて表現する発信力につながることをこの取り組みで実際にカリキュラムとして実行してきました。

特色GP「発展し続ける英語教育プログラム」では、この他にも特に1～2年生の英語教育に関わる、例えば、語彙学習の方法の研究、翻訳通訳への導入、フィルムメイキングによる英語表現力の養成、ドラマ手法による英語表現力の涵養、数多くの英語教育研究を行いました。このような取り組みの課程で、これらすべての教育・研究活動を統合する機関としてTECC(Tsuda English Coordination Center)を2005年度に立ち上げることが出来ました。

以下が、4年間に行った英語教育フォーラムの紹介です。



「グローバル化していく英語—昨日、今日、明日」  
(2004年12月18日)

パネリストとして世界で活躍中の卒業生を迎え、仕事を通して感じる英語使用の重要性やその位置づけ、英語教育のあり方などについて話し合いました。



「表現教育のいま」(2005年12月18日)

演劇および教育の世界で活躍中の3氏をパネリストに迎え、表現教育に求められているものは何かなどについて議論しました。

続く第二部では、在學生により、津田梅子の手紙等をもとに構成した英語創作劇を上演しました。



「英語で書くーライティング教育の可能性」(2006年12月16日)

ライティング教育に詳しい3先生を招き、教育現場の声を聞きながら、「英語で書く」ことの重要性とその教育について語り、愉しく「書く」ことを多角的に検討しました。



「英語教育の明日ー世界に目を向けて」(2007年12月8, 9日)

世界で最も教育に成功し、特に英語教育が進んでいるとして注目を集め続けているフィンランドの教育をフィンランドの研究者を招聘して紹介しました。また、表現教育の先進的取り組みを行っているニューヨーク大学の先生による表現教育指導やワークショップも行いました。

2008年度～2010年度の教育GP「専門課程における英語カリキュラム協調開発」(副題：理系・社会系および文系専門課程レベルの学生のための内容重視の英語教育カリキュラムの再構築および開発)においては、1～2年の英語基礎教育の先、つまり3～4年生のための専門とリンクした英語教育について取り組みます。基本理念は、内容重視の英語教育で、国際関係学科、情報科学科、数学科、英文学科の学生たちがそれぞれの専門分野で培う知識や技能を英語を通して学ぶことによ

広 告

り、学習意欲がわくと同時に学習の効率化を追求するというものです。大学生は3～4年生になるとどうしても自分の専門領域への関心が強くなり、時間的にも専門に投入する時間が増えます。したがって、一般英語の学習を続けることが特に理系と社会系では困難になり、英語離れが起きかねません。それを防ぐべく専門領域と英語教育を重ね合わせる、内容重視の英語カリキュラムを開発していきます。

この教育GPの大きな特色は、ICT (information communication technology) を強力な推進力とする点です。この取り組みでは、特に英語教員と情報科学科教員が綿密な連携をとりながら、コンピュータやインターネットをフルに活用した英語教材とカリキュラムを創り上げていきます。

世界における英語の位置づけや使用は今後さらに変容を遂げていくものと考えられます。また、英語の必要性は社会のさまざまな分野にさらに広がり続けるでしょう。そのような時流の中で英語教育、教材、カリキュラムは大きく変っていくのが自然です。この新しい教育GPはそのような時代の要請に応えられる英語教育の姿をもとめて

ICTと英語の連携を現実のものにしていきます。

## 私の授業紹介

鈴木 右文・九州大学

### 3次元仮想空間チャットシステムの近況

私は本来生成文法が専門分野だが、1997年に九州大学にCALLシステムが導入されるときの世界役をしたことがきっかけで、CALL実践に手を染めることになった。1999年には所属部局が野村総研とタイアップして、3次元仮想空間チャットシステムという当時野村総研が開発中だったコミュニケーションシステムの外国語教育への応用を实践するプロジェクトに取り組むこととなり、私も珍しいタイプの授業を試行することとなっ

広 告

た。以来このシステムを使用した授業を現在に至るまで実践し続け、英語教育理論や学問としてのCALLを知らないまま、手探りで科研費を取得し、拙いながら様々な学会や紀要等で実践内容を発表してきている。1992年の九大着任当時はキーボードに触ったことすらなかったのに、まったく今は何屋なのかわからない。困ったものである。

初めての方のために概略を説明すると、このシステムを利用すれば、自分の分身であるアニメーション・キャラクターの姿で仮想空間へ進入し、教員の操作で組まれたランダムペアにおいて（もしくは空間内で自由に相手を探して）文字ベースのチャットができる。これを利用してディベートやディスカッション、ロールプレイといったタスクで英語対話演習授業を行う。文字は空間内で分身の頭上に吹き出しとなって現れる。インターフェイスはエンターテインメントの要素が多いように見えて実は結構な対話演習になっているという寸法である。だいたいあちこちで発表しているので、このシステムについての話は初めてでない方も少なくないと思うが、近況を報告させていただきたい。



©九州大学大学院言語文化研究院・野村総合研究所(株)

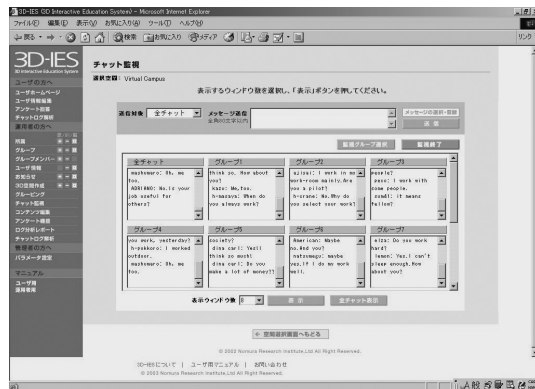
このシステムによる授業のよいところは、何と言っても受講者のノリがいいことである。それこそ嬉々として参加してくれる。あとは上手に予習を促し、チャットのログを自己添削させると、かなり授業としてのまとまりができる。また、多地点を結んで実施することもでき、北大と以前は共同授業を実施していたが、残念ながら現在では取りやめになっている。海外ともしたいところだが、

時差はどうにも克服できない。

これまで科研費では、システムの改良、実施するタスクの開発、使用者が産出する英文の品質などをテーマとしてきたが、現在は口頭での対話演習と組み合わせた授業を実践し、その実施方法を探るという内容で4回目3年間の基盤研究Cを実施中である。またお陰で、『高等教育における英語授業の研究 授業実践例を中心に』（松柏社、大学英語教育学会授業学研究委員会編著）の付録DVD収録に全国から選ばれた数件のひとつとなることができた。

あまり同種の授業例は聞かないので、なるべく息長く続けていきたいと思っているが、九州大学では共通指定教材利用の授業が多く、文系7単位のうち2単位、理系6単位のうち1単位でしか自由な設計の授業はできない。また、コンピュータ教室も共通教材の授業で混み合っている。従って特別な授業をオーバーノルマで開講するなど、科研費を取得しているてまえ、授業実践枠確保に綱渡りをしている。

ご興味のある方にはぜひどのようなものか知っていただきたい。http://www.3d-ies.comが最も簡便である。論文類はhttp://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/index.htmlの「論文」を参照されたい。



©九州大学大学院言語文化研究院・野村総合研究所(株)

## 研究会紹介

# 九州・沖縄支部 ESP 研究会

代表 安浪誠祐・熊本大学

九州・沖縄支部ESP研究会は、前九州工業大学教授の山中秀三先生の呼びかけにより1996年に正式発足しました。その後、山中先生は中部支部に移られましたが、支部の研究会は残り、今日まで継続した活動を行ってきました。発足当初より、徐々に研究会は発展してきており、会員数は現在20名となり、会員の研究ジャンルの範囲も科学技術英語（工業英語）航空英語から、医学英語、看護学英語、スポーツ科学英語、栄養学英語、観光英語と広がってきています。また、研究分野もニーズ分析、語彙研究、コーパス分析、マルチメディア教材開発、テキスト教材開発、効果的CALL利用教育研究、海外進出企業取材による教

材開発、脳科学に基づいた学習効果の研究などと広がりを見せており、常に最先端の応用言語学の研究方法を取り入れた研究が行われています。

現在の活動内容は、年数回の研究会開催と年1回研究会誌を発行することです。研究会誌「ESPの研究と実践」は2008年度で第7号を数え、今年度に第8号を発行する予定で準備が進められています。支部の研究会のメンバーは全国大会や支部研究大会での個人研究発表や共同研究発表はもとより、全国大会においてシンポジウムを行ってきました。過去には他支部のESP研究会と合同でシンポジウムも開催しています。また、会員の共同研究が科研費補助研究として採択されたものも数件あり、このような研究の成果はJACETの全国大会や支部大会のみならず海外での学会発表（International Pragmatics Association, Corpus Linguistics Conference, IATEFL, RELC, PKETA, Euro-CALL, AsiaTEFL, WorldCALLなど）も行ってきました。また、ESPの分野で博士論文を完成させた会員もいます。

今後、小学校に正式に英語教育が導入されると、大学入学前の英語教育でのオーラルイングリッ

広 告



シュの比重が高まり、大学では「日常英会話」のニーズが低くなる代わりに、専門分野を学ぶために必要な英語力の習得が求められてくると考えられます。したがって、ESPが大学の英語教育においてはますます重要となり、新しい「学士課程教育の構築」の柱として専門教育に関連した語学力の養成を目指した教育活動を展開するためには、一般英語教育のカリキュラムにESPが当然組み込まれるようになると思われます。九州・沖縄支部のESP研究会は、このような日本の英語教育の変化を視野に入れつつ、これまでの基礎的研究を礎に、大学初年次教育から学部卒業まで、さらに大学院での英語教育において体系的なESP教育を実践するための教育研究と実践を進めていくことになると予想します。

(副代表 山内ひさ子・長崎県立大学シーボルト校)

## 本部便り

代表幹事 寺内 一・高千穂大学

2008年度最後の「本部便り」になります。岡田副会長が「巻頭言」でも触れておりますが、本学会は2008年8月15日に社団法人大学英語教育学会となりました。

### A 総務委員会より

#### 1. 2008年度第2回定例理事会（春季）と

#### 2008年度第2回定例社員総会（春季）の開催

社団法人として定められた『定款』により、2009年度の事業計画（案）と予算（案）を「理事会」と「社員総会」で審議いたします。また、2009年度「人事」（案）も審議対象となります。

(1) 社団法人大学英語教育学会『定款』第26条(理事会の招集等)より

2008年度社団法人大学英語教育学会第2回定例理事会（春季）

日時：2009年3月22日（日）10:30～12:00

場所：早稲田大学商学部大会議室

尚、「準備会」（仮称）を2009年3月21日（土）13:00～17:30（場所：JACET事務所）で開催します。

(2) 社団法人大学英語教育学会『定款』第29条(社員総会の招集)より

2008年度社団法人大学英語教育学会第2回定例

社員総会（春季）

日時：2009年3月22日（日）13:00～14:30

場所：早稲田大学商学部大会議室

#### 2. 2008年度事業報告案の提出

2009年3月21日の準備会（仮称）において各委員会と各支部の担当者に「2008年度事業報告」の作成を依頼します。この事業報告は2009年6月21日（日）に青山学院大学で開催される2009年度第1回定例理事会と第1回定例社員総会で審議され、文部科学省に提出されます。

#### 3. 2009年度事業計画案

法人化に伴い、事業計画には、各事業の項目ごとに目的・対象・規模・広報・成果を記載することが義務付けられ、2.の事業報告にもそれぞれの結果を記載していくことになりました。公的に認可された団体の活動内容もまたより透明性を要求されることとなります。以下にその「事業計画（案）」（抜粋）を記載しておきます。

### 社団法人大学英語教育学会 平成21年度事業計画（案）

平成21年度は年度初めから社団法人として活動を行う初めての年度になる。また、創立50周年に向かい本格的な活動も繰り広げていくことになる。

以下は、『定款』第5条（事業）に掲げる事業目的に基づいて企画された「平成21年度事業計画」の概要である。

1号事業：大学英語教育及び言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

(1) 全国大会・支部大会の開催

(2) セミナーの開催

2号事業：紀要、学会誌等の出版物の刊行

(1) 『紀要』（本部・支部）の刊行

(2) 『JACET通信』の刊行

(3) 『英語教育学大系』全13巻の第1巻の刊行とその他の巻の刊行準備

3号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力

(1) 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・実践賞）

(2) 関係学術団体への派遣

4号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

(1) 各専門分野の調査研究に係る研究会活動助成と活性化

(2) 実態調査特別委員会による全国調査

5号事業：前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 会長選挙・支部長選挙・社員選挙の実施

(2) 理事会・社員総会の実施

(3) 本部運営会議・支部長会議・支部役員会の実施

#### 4. 2009年度の理事会と社員総会開催予定

2009年度に開催される理事会と社員総会の予定です。

(1) 社団法人大学英語教育学会『定款』第26条(理事会の招集等)より

2009年度社団法人大学英語教育学会第1回定例理事会

日時：2009年6月21日(日) 10:30～12:00

場所：青山学院大学

2009年度社団法人大学英語教育学会臨時理事会

日時：2009年9月3日(木) 13:00～16:00

場所：北海学園大学

2009年度社団法人大学英語教育学会第2回定例理事会

日時：2010年3月21日(日) 10:30～12:00

場所：早稲田大学

(2) 社団法人大学英語教育学会『定款』第29条(社員総会の招集)より

2009年度社団法人大学英語教育学会第1回社員総会

日時：2009年6月21日(日) 13:00～14:30

場所：青山学院大学

2009年度社団法人大学英語教育学会第2回社員総会

日時：2010年3月21日(日) 13:00～14:30

場所：早稲田大学

### B 全国大会運営委員会

第50回記念国際大会に向けてオンライン化を進めております。その第一歩といたしまして、従

来6月下旬に会員の皆様にお送りしてきました第48回(2009年度)全国大会の『大会プログラム』をJACETのウェブページに掲載することとなりました。会員の皆様にはウェブページでプログラムをダウンロードしていただきたく存じます。お手数でございますがどうぞよろしく願いいたします。また『大会要綱』に関しましては、例年通り大会時に受付で配布いたします。

### C セミナー委員会

2008年度春季英語教育セミナーを下記の日程で開催いたします。

2008年度春季英語教育セミナー

テーマ：英語授業力向上のための教師の研修

日時：2009年3月21日(土) 10:00～17:30

場所：東洋大学白山キャンパス(都営三田線「白山」徒歩3分)

講師：大谷泰照・久村 研・笹島 茂・川村光一

内容：講師による講演とパネル・ディスカッション

## 支部便り

### 〈九州・沖縄支部〉

第6回運営委員会

日時：11月1日(土) 14:10～17:05

場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

議題：

(1) 次期支部大会について

(2) 次年度ニューズレターについて(支部創立25周年企画)

(3) 次年度予算案・人事案・事業計画案(いずれも本部提出用書類)について

(4) 「支部総会における議決」について

(5) ICT委員会(人事およびワークショップの件)

第83回東アジア英語教育研究会

日時：11月22日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205教室

発表者：清永克己(飯塚日新館中)

発表題名：韓国の教育政策

九州・沖縄支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* No.13 発行

12月18日(支部会員、各支部、本部、国会図書館、

PKETAに送付)

**第84回東アジア英語教育研究会**

日時：12月20日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学学術研究所第2会議室

シンポジウム「大学生英語エッセイコーパス CEEJUSに見る日本人英語学習者の言語使用の諸相」

総合司会：石川慎一郎(神戸大)

「CEEJUSの概要とプロジェクトのアジア展開について：中間言語対照分析の必要性」石川慎一郎(神戸大)

「日本人英語学習者の理由表現：becauseを中心に」森口寛子(神戸大院生)

「日本人英語学習者の強意詞の使用：veryを中心に」野田盛一郎(神戸大院生)

「日本人英語学習者の法助動詞の使用」伊藤操(兵庫教育大院生)

「日本人英語学習者の cohesive device の使用」篠原みゆき(兵庫教育大院生)

「日本人英語学習者の起動表現の使用」田中泰明(神戸大院生)

「日本人英語学習者は派生語を使えるか？：心内辞書モデルとコーパスデータが示す学習者の形態知識」坂田直樹(神戸大院生)

**第7回運営委員会**

日時：1月10日(土) 14:10～17:15

場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

議題：

- (1) 2009年度の支部予算案について
- (2) 次期支部大会について(テーマ決定等)
- (3) 支部長選挙、支部選出社員選挙の方法について
- (4) PKETAとの交流提携について
- (5) 次号ニューズレターについて

**第85回東アジア英語教育研究会**

日時：1月24日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205教室

発表者：石井和仁(福岡大)

発表題名：項目応答理論(IRT)に基づく英語運用能力テストの累積データ分析から見えてくるもの—TOEIC換算ポイントをふまえた福岡大学平均と全国平均の比較を通して

**第2回支部大会実行委員会**

日時：2月6日(金)

場所：琉球大学

**第8回運営委員会**

日時：2月14日(土) 13:00～15:45

場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

議題：

- (1) 支部大会テーマについて
- (2) 全国大会の司会者について
- (3) その他

**第1回50回記念国際大会地元準備委員会**

日時：2月14日(土) 16:00～18:00

場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

**第3回支部大会実行委員会**

日時：2月27日(金)

場所：琉球大学

**第86回東アジア英語教育研究会(予定)**

日時：3月21日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205教室

発表者：Jan Stewart(筑紫女学園大)

発表題名：未定

支部ニューズレター No.25

4月15日発行予定

**第4回支部大会実行委員会(予定)**

日時：4月17日(金)

場所：琉球大学

**2009年度第1回運営委員会(予定)**

日時：4月18日(土) 14:00～

春季学術講演会(予定)

日時：5月9日(土)

**第2回運営委員会(予定)**

日時：5月23日(土) 14:00～

九州・沖縄支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* No.14 投稿締切り

5月31日

**第5回支部大会実行委員会(予定)**

日時：6月5日(金)

**2009年度第1回支部紀要編集委員会(予定)**

日時：6月6日(土) 12:00～

**第3回運営委員会(予定)**

日時：6月6日(土) 14:00～

**第4回運営委員会(予定)**

日時：6月19日(金) 17:00～

**第23回支部研究大会(予定)**

日時：6月20日(土) 9:30～17:40

場所：琉球大学

大会テーマ(予定)：World Englishesと大学英語教育

(志水俊広・九州大学)

## 〈中国・四国支部〉

### 1. 第3回大学英語教育学会 中国・四国支部 ブロック1 研究会

日時：11月8日（土）

場所：広島国際学院大 立町キャンパス

[A] 研究発表

1) “Change of Attitudes of Instructors and Students toward Teaching and Learning English through Short English Programmes: A Case Study of an NGO in Southern Thailand” Misako FUTSUKI (IDEC, Hiroshima Univ.)

2) 「日本人英語学習者にとっての英語後置修飾構造の理解」, 卯元陽子 (安田女子大・院)

3) “The Inconsistencies of Quantitative Analysis and Qualitative Analysis”, Julia Mika Kawamoto (grad. student, Hiroshima City Univ.)

4) “Motivating College Students to Speak English”, Nozomu Sonda (Yamaguchi Univ.)

5) “Let Us Use More English in Our Class—A Proposal to Make English an Official Language in English Class”, Keiji Nishioka (Okayama Univ. of Science)

6) 「J A C E T 中国四国版、大学生オーラルコミュニケーション活動—大学間連携イベントの提案」, 岩井千秋 (広島市立大)

7) “Hiroshima Peace Park: An Open Air Language Classroom”, George Higginbotham and William Moore (Hiroshima International Gakuin Univ.)

### 2. 第3回大学英語教育学会 中国・四国支部 ブロック2 研究会

日時：11月22日（土）

場所：鳥取大学共通教育棟

[A] 研究発表

1) “Reflections on Motivation in the Classroom”, Trevor Sargent (Tottori Univ.)

2) “Ethnography and the Educator: How Gaining Expertise in the Classroom can Motivate Learners and Teachers Alike.”, Scott Brooks (Tottori Univ.)

3) 「日本人の英語学習モチベーションとは何か？」  
内田浩樹 (鳥取環境大)

[B] シンポジウム

テーマ：「英語教育の現状を考える —中高大の垣根をこえて—」

司会：筏津成一 (鳥取大)

パネリスト：内田浩樹 (鳥取環境大) 鳥越 秀知 (詫間電波高専) 福島卓也 (鳥取東高) 佐々木雅人 (湖東中)

(鳥越秀知・詫間電波高専)

## 〈関西支部〉

### 1. 関西支部秋季大会

テーマ：「大学生の英語力の現状にどう対応するか」

日時：2008年10月12日（日）10:00～16:50

場所：神戸大・国際文化学研究科キャンパス

参加者：97名

(1) ワークショップ 1: 小学校英語活動指導者養成カリキュラム—大学での取り組みに向けて—  
辻伸幸 (和歌山大教育学部附属小) 牧野眞貴 (関西国際大) 田邊義隆 (近畿大) 野口ジュディ (武庫川女子大) フィゴーニ啓子 (武庫川女子大)

(2) ワークショップ 2: ICTを活用した英語教育—e-Learning ワークショップ—

山本英一 (関西大) 柏原郁子 (大阪電通大) 野澤和典 (立命館大) 杉森直樹 (立命館大)

(3) ワークショップ 3: 発信力を高める授業を目指して

小栗裕子 (滋賀県立大) 笹井悦子 (桃山学院大) 村上裕美 (関西外国語短大)

(4) 実践報告: コンピュータ教室を利用した自学中心の英語補習授業

平尾日出夫 (立命館大) 徳本恵 (立命館大)

(5) 研究発表 1: 企業ウェブ情報を用いたビジネス系ESP教材開発とビジネスマインドの醸成  
椋平淳 (大阪工業大) 桐村亮 (大阪工業大)

(6) 研究発表 2: 発表語彙能力の構成：さまざまな測定方法による比較

クレントン・ジョン (大阪大)

(7) 研究発表 3: 論文原稿における前置詞の選択—コーパスに基づく誤用分析—

梅咲敦子 (立命館大)

(8) 研究発表 4: 多重知能理論における身体運動的知能を活用したコミュニケーション能力の育成—AICJ 中学校の場合—

二五義博 (広島女学院大・大学院生)

(9) シンポジウム

広 告

「大学生の英語力の現状にどう対応するか」  
植松茂男（摂南大） 泉恵美子（京都教育大） 加藤雅之（神戸大） 川越栄子（神戸市看護大） 山本英一（関西大）

## 2. 第2回支部講演会：関西支部ESP研究会特別シンポジウム「ESPで変わる大学英語教育」

日時：2008年12月14日（日）15:30～17:00

場所：神戸・三宮研修センター

司会：幸重美津子（京都外国語大）

講演：野口ジュディー（武庫川女子大）「なぜESP?」

報告：森口稔（広島国際大）「ESPアーカイブの作成」

## 3. ニュースレター

45号 2008年10月24日刊行

46号 2009年1月30日刊行

## 今後の予定

### 1. 第3回支部講演会

日時：2009年3月1日（日）15:30～17:00

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス

演題：「語用論と英語教育」

講師：河上誓作（神戸女子大）

### 2. 支部紀要

『JACET Kansai Journal』11号 2009年3月31日刊行予定

### 3. 関西支部春季大会

テーマ：「大学生の英語力の現状にどう対応するか（II）」

日時：2009年6月27日（土）

場所：京都外国語大学短期大学

（川越栄子・神戸市看護大学）

## 〈中部支部〉

### 1. 支部役員会・評議委員会・運営委員会

(1) 第7回役員会、支部大会合同運営委員会

日時：1月12日（土）

場所：中部大学名古屋キャンパス

議題：2008年度中部支部大会プログラム、3月定例研究会について

(2) 第8回役員会、第2回中部支部大会合同運営委員会

場所：中部大学名古屋キャンパス

日時：2月9日（土）

議題：2008年度人事、予算、活動計画について

(3) 第9回役員会、第3回中部支部大会合同運営委員会

場所：中京大学

日時：3月8日（土）

議題：平成20年度第25回中部支部大会について

(4) 第10回役員会、第4回中部支部大会合同運営委員会

場所：中京大学

日時：4月19日

議題：理事会・組織構成委員会報告、支部大会プログラム、運営について、ニュースレターについて、役員会のお知らせ方法について

(5) 第5回中部支部大会合同運営委員会

場所：中京大学

日時：5月10日

議題：支部大会プログラム、運営について

(6) 評議委員会

場所：中京大学

日時：5月10日

議題：2007年度事業・会計報告、2008年度事業・会計計画の承認、本部報告

(7) 2008年度第1回役員会

日時：7月12日

場所：名古屋工業大学

議題：新支部長挨拶、理事会報告、支部大会の総括、紀要について、ニュースレターについて

### 2. 定例研究会

場所：中京大学

日時：3月8日（土）

講演：「効率的な英語教授法の模索—光トポグラフィによる脳科学からのところみ—」

講師：大石晴美（岐阜聖徳学園大）

研究発表：中部ESP研究会

(1) 「工業英語の歴史的背景と経緯」（馬場景子・中部大）

(2) 「栄養学英語」の学習について—読解ストラテジー構築の諸問題—（滝川桂子・名古屋文理大）

### 3. 25周年記念支部大会（JALTとの合同）の開催

テーマ：英語教育におけるシナジー効果を求めて

場所：中京大学

日時：6月14日

講演：「Promoting Learner and Teacher Autonomy through Collaborative Learning and Teaching」（小嶋英夫・弘前大）

シンポジウム：「教師間のシナジー効果を求めて  
Toward a Synergistic Collaboration in English  
Education」

司会：木村友保（名古屋外国語大）

パネリスト：境 賛三（中京大）、Nancy Graves（神  
戸国際交流プログラム）、Juanita Heigham（椋山  
女学園大）

研究発表・ワークショップ 28件（2件以外全て  
英語での発表であった）

#### 4. 『中部支部25周年記念論文集』の刊行

6月14日に中部支部25周年を記念して中部支部  
25周年記念論文集を発行した。会長、副会長、  
各支部長から祝辞、歴代支部長からの随想を含め、  
研究論文14編を集録した。

#### 5. ニュースレター

第20号が5月14日に発行された。

#### 6. 今後の予定

講演会

場所：南山短期大学

日時：10月25日

演題：「小学校英語-私が一貫して反対する理由と  
わたくしの代案」

講師：大津由紀雄（慶応大）

（塩澤正・中部大学）

### 〈関東支部〉

#### 1. 関東支部合同会議日程

1月10日 14:00～15:00（英教会議室）

2月28日 16:00～17:00（JACET事務所）

3月17日 16:00～16:30（JACET事務所）

#### 2. 人事

新研究企画委員（11月、12月支部合同会議によ  
り承認）

鈴木彩子氏（所属委員会：大会運営委員会）

星野由子氏（所属委員会：研究年報作成委員会）

中川知佳子氏（所属委員会：研究年報作成委員  
会）

マーク・クリスチャンソン氏（所属委員会：全  
国大会運営委員会）

研究企画委員退任（12月支部合同会議により承  
認）

岡田礼子氏

#### 3. 研究会

月例研究会

日時：3月14日 17:00～18:00

開催場所：英教会議室

発表者：鈴木英夫先生（東京大学大学院）

タイトル：英文読解力養成のための一つの試み

#### 4. 講習会

ICT講習会

日：3月14日

場所：早稲田大学

（詳細は関東支部ホームページをご覧ください）

#### 5. 2009年度関東支部大会関係日程

関東支部大会：

日時：2009年6月21日（日） 9:00～18:00

場所：青山学院大学（青山キャンパス）

大会テーマ：「大学英語教育を取り巻く現状と展  
望：言語政策の観点から」

大会発表応募締切：2月28日

プログラム送付：4月上旬（予定）

大会参加申込書：4月上旬（予定）

（支部大会に関する最新の情報は関東支部ホーム  
ページでご確認ください。）

（上田倫史・目白大学）

### 〈東北支部〉

#### 1. 支部役員会及び例会（10月）

日時：2008年10月11日（土）役員会 12:30～  
14:00、例会 14:30～16:30

場所：仙台市民会館

役員会報告：1) 2009年度支部大会テーマを「学  
習者と教師の成長」（仮）とし、JACET 研究  
会関係者によるシンポジウムを計画すること、  
2) 2010年9月の全国大会のテーマ、主旨、基  
調講演候補者に関する支部案等について話し  
合った。

研究発表：

1) 多田恵美（青森公立大）“Providing Real Life  
Experience in Classroom: EFL Class with  
Contemporary Artists”

2) 草薙優加（秋田県立大）“Activating English  
Learners' Confidence and Participation  
through Reading”

講演：

大井恭子（千葉大）「思考力、判断力、表現力  
を育むための英語ライティング授業」

#### 2. 支部役員会及び例会（12月）

日時：2008年12月6日（土）役員会 13:00～  
14:00、例会 14:30～16:00

場所：東北工業大学一番町ロビー

役員会報告：1) 2009年度活動計画、2) 2010年9月の全国大会準備等について話し合った。2009年度の支部臨時役員会を例年より少し早めの、4月25日(土)に開催することになった。また、新メンバーの紹介があった。

研究発表：

- 1) 香取真理(青森公立大)「日本語母語話者の文章要約過程とTOEICリーディングサブスコアとの関係」
- 2) 蔡少玲(山形大)“An Examination of the Applicability of the Bilingual Asymmetry Model to Japanese: Insight into Kanji-to-English and Kana-to-English Translation”
- 3) Chutatip Chiraporn Yumitani(東北福祉大/宮城学院女子大)“Verb Forms and Independent Learners”

(會澤まりえ・尚綱学院大学)

## 〈北海道支部〉

### 1. 研究会の開催

- 1) 2008年度第2回研究会

日時：2008年11月8日(土) 13:00～14:00

場所：北海学園大

研究発表1：「私に聞こえる音はあなたに聞こえる音と同じか—日本語母語話者と英語母語話者による開母音の知覚」(片山圭巳・北海道大院)

研究発表2：「発音学習における失敗原因帰属間の比較」(吉田努・北海道大院・札幌開成高)

- 2) 2008年度第3回研究会

日時：2009年1月31日(土) 13:30～15:00

場所：北海学園大

支部大会奨励賞表彰式：志村昭暢(旭川実業高校)

研究発表1：「言語教育におけるビリーフ研究の流れ—学習者から教師のビリーフへ—」(山田智久・北海学園大)

研究発表2：「小中連携に向けた英語授業改善：教師の授業観・習得観の差異分析」(萬谷隆一・北海道教育大、石塚博規・東海大、中村香恵子・北海道工業大)

### 2. 支部役員会の開催

- 1) 2008年度第2回役員会

日時：11月8日(土) 14:00～16:00

場所：北海学園大

報告：支部長報告、幹事報告

議題：支部大会奨励賞の決定、09年度人事案について、09年度事業計画・予算案について、10年度支部大会の時期について、紀要委員会について、第3回研究会について、その他

なお、同日10:00～12:00に、第48回全国大会準備委員会が開催された。

- 2) 2008年度第3回役員会

日時：2009年1月31日(土) 15:00～17:00

場所：北海学園大

報告：支部長報告、幹事報告、各種委員会報告

議題：09年度北海道支部事業計画・予算案の変更、09年度北海道支部人事案の変更、09年度紀要委員会について、10年度支部大会の時期について(継続審議)、その他

なお、同日10:30～12:30に、第48回全国大会準備委員会が開催された。

### 3. 今後の予定

紀要およびニューズレターの発行

*Research Bulletin of English Teaching* 第6号、JACET北海道支部ニューズレター第22号を発行の予定。

(尾田智彦・札幌大学)

## 事務局からのお知らせ

専務理事・事務局長 田中慎也

### 1. 「年会費」の支払

毎年6月末日までに「年会費」の支払いをお願いします。4月初旬に皆様に配信致します新「郵便振替用紙」をご使用ください。なお、同振替用紙を紛失なされた方は以下にご連絡をお願い致します。

電話：03-3268-9686 FAX：03-3268-9695  
jacet@zb3.so-net.ne.jp

昨年度同様、当該年度の会費未納者の方へは会費が納入されるまでJACETからの発送物を停止させていただいておりますが、2009年度も10月第1週に「督促状」の発送、その後2週間以内に納入されていない場合は発送の停止を行うことになっております。また、当該年度中にお支払いがない場合は会員資格を失いますのでご注意ください



広 告

さい。

## 2. 所属・Eメールアドレスなどの変更

会員の皆様の所属やEメールなどの変更は、「会員ご本人」がJACET専用のEメールアドレス [jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp) に直接ご連絡してください。

## 3. 事務局の業務時間について

通常、事務局の業務時間は（月）～（金）午前10時から午後5時までとなっておりますので、ご連絡・お問い合わせ等の際はお間違いのないようお願い致します。

## 4. 2009年度予算執行に際してのお願い

2009年度は、JACETが社団法人の認可を受けて2年目に入る年となります。そのため、予算執行に当たっては文部科学省に理事会が提出した予算案に沿って行なわなければなりません。現在、法律上JACETは特例民法法人という事になっており、将来公益社団法人にするか、一般社団法人にするかは今後5年間の移行期間の間に理事会で検討・決定しなければなりません。公益でいくにせよ、一般でいくにせよ、2009年度の予算執行において予算案から大きく逸脱した赤字決算を出せば社団法人は5年間の儂い夢となる恐れがあります。

従いまして、事務局としては、今後も鋭意会員の皆様へのサービスを低下させず、また学会の研究活動を促進できる予算執行に努めたいと実務レベルで鋭意検討を重ねていく所存ですが、予算執行に当たりましては何かと窮屈な場合もあるかと存じます。その折には諸般ご賢察を戴き御協力のほどお願い申し上げます。

### 編集後記

本号が2008年度最後のJACET通信となります。2008年度は、JACETにとって法人化という大きな節目の年となりました。2009年度はどんなニュースをお伝えできるでしょうか。

本号では、海外提携学会MELTA(マレーシア)のDr. Normala Othmanに多大なご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。また、津田塾大学の田近裕子先生、九州大学の鈴木右文先生、長崎県立大学シーボルト校の山内ひさ子先生にも、学期末のお忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

### 編集委員

理事 山岸信義・青山学院大学・非  
委員長 大須賀直子・明治大学  
副委員長 田口悦男・大東文化大学  
副委員長 Kate Allen・明治大学  
木村みどり・東京女子医科大学  
遠藤雪枝・明治大学・非

2009年3月1日発行

発行者 社団法人大学英語教育学会（JACET）  
代表者 森住 衛  
発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55  
電話 (03) 3268-9686  
FAX (03) 3268-9695  
<http://www.jacet.org/>  
印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12  
有限会社 タナカ企画  
電話 (046) 251-5775